（1）西日本地区研究会報告

日時：2000年6月17日

会場：同志社大学

出席者：秋津元輝、鰺坂学、蘭信三、飯坂正弘、上野雪絵、交野正芳、菊池暁、木村都、庄司俊作、杉本久未子、高木学、武田祐佳、玉里恵美子、龝理恵子、春木育美、福田恵、藤井勝、藤井和佐、星眞理子、宮崎良美、虫明菜穂子、村上弥生、森美香、家中茂、矢野晋吾、湯浅俊郎

今回は鰺坂学氏（同志社大学文学部）と藤井和佐会員（奈良女子大学文学部）より以下の内容の報告が行われた。遠方からの参加者も含めて26人が出席し、活発な議論を展開した。

報告1：鰺坂学「都市－農村関係の再考―都市同郷団体・過疎地域の調査から―」

鰺坂報告は、報告者が長年継続してきた調査の豊富な資料を踏まえ、都市と農村関係の再考を試みた。今回主に取り上げたのは、中国地方の過疎地域の調査と、同郷団体の全国町村調査及び個別的調査である。前者は報告者が約10年前より続けてきた研究で、広島県北部の過疎山村がフィールドである。その結果、高齢化が進展している地域では、他出した家成員が頻繁に帰省して高齢者を支えている状況が明らかになった。後者は、奈良県十津川村の同郷団体や石川県出身者による公衆浴場・豆腐製造業団体などの事例をもとに、従来の見解では時代の推移とともに消えていくと思われていた同郷団体が、実際はむ

しろ活性化している実態の報告であった。

これらを踏まえて、移動・移住論は単なるプッシュープル論にとどまらず文化的・イデオロギー的紐帯の形成をみることが必要であること、またゲゼルシャフトリッヒな都市社会においては第１次的関係が重要である点などが指摘された。討議では、同郷者団体の社会的性格の位置づけなどについて意見が交換された。

報告２：藤井和佐（奈良女子大学）

「女性地域リーダーと政治文化の創出～CPS（Community Power Structure）理論からのアプローチ～」

藤井報告は、ＣＰＳ理論をもとに、女性地域リーダーが政治へ参画してゆく過程について分析を行い、地域政治文化の変容モデルの提示を試みた。事例としては、長野県Ｉ村の農業委員と広島県Ｏ町の漁協理事を取り上げている。Ｉ村の事例では行政の認定制度や地域の理解、女性リーダー自身の努力をもとに、生活リーダーから経済的リーダーのステップを経て政治的リーダーとして地域の意志決定への参画を進めていく実態を論じた。これに対し、Ｏ町では女性の担う仕事が多い採貝業を中心に営むＨ漁協を事例に、生活リーダー、経済的リーダー、政治的リーダーが一体化して女性の参画が展開した。

こうした女性リーダーがつくりあげる新たな政治文化の可能性として、従来のような利益誘導型のハードづくりではなく、地域内完結ではない視点で活動し、業種がソフト化している点、女性独自のリクルートメントルートの確立をあげた。討論では、従来型の地域政治文化と本事例の関係性などについて論じられた。

（文責：矢野晋吾）